



ニュースレター

第42回理事会が10月14日に開催される

<報告事項>

- (1) 第9回公開セミナー（9月23日開催）についての報告がなされた。
- (2) 2012年度香川県地域自殺対策緊急強化基金事業の経過報告として、自殺予防ホットラインかがわとヘルプラインかがわ電話カウンセリング並びにグループミーティングの報告があった。
- (3) 第2回相談担当者会議（9月16日開催）についての報告がなされた。
- (4) 山陽放送局からの取材（9月26日）について、報告がなされた。

<審議事項>

1. 2012年度ヘルプラインカウンセラー養成講座について

講師と役割分担が示され、10月21日開催の第1回講師・担当者合同会議で詳細な役割分担について協議すること、及び12月16日に中間の講師会を開催することで了承された。

2. 個別面談による相談事業について

個別面談に関する実施要領案についての提案があり、了承された。今後、相談担当者会議の中でプロジェクトチームを結成させ、研修も含めて具体的なところを決めていくことが了承された。なお、相談事業は、GWK本体の事業として立ち上げていくこと、基金事業が25年度以降も継続するならば、基金事業を活用し、取り組むことも了承された。

3. 参画センター市民フェスティバルの参加について

パネル展には、グリーフワークかがわのポスター、「ハンドブック」の表紙及び紹介、ハンドブックの申込書、各種リーフレットを展示することと役割分担について了承された。

4. 2012年度香川県地域自殺対策緊急強化基金事業の上半期の執行状況について

次回理事会で、各事業の担当理事から上半期実施状況について報告することが了承された。

5. 2013年度の自殺対策に関する基金事業の見通しについて

2013年度の基金事業について、杉山理事が県の担当者と協議し、執行見通しについて状況を確認し、次回の理事会で報告することが了承された。

6. 広報活動について

市町の保健センターへ、GWKの紹介及び基金事業活動について、先にリーフレットを発送したことを活用して2人1組で訪問する為の役割分担を決め、早急に行動することが承認された。10月21日の相談担当者会議で、具体的なことについて協議を行うことが了承された。

7. 2013年度以降のグループミーティングのあり方及び担当者の募集について

8月に実施した会員の意向調査を受けて、ミーティングを希望した会員を対象にミーティング参加についての条件を示し、意思確認を行うことが了承された。

◆◆◆公開セミナー報告◆◆◆

第8回公開セミナー

子どもの中の喪失・・・家庭・親

「家庭・親」と離れて暮らす子どもたちにとっての「喪失とは」というテーマでお話ししました。「児童養護施設」・「児童虐待」・「発達障害」について説明をしたあと、この子どもたちが「失くしたもの」とはについて考えていただきました。

「失くしたもの」ではなく、初めから無かったのではないか、そして何が「無い」のか。

- ・自己肯定感がない、居場所がない。
- ・親からの無償の愛がない。
- ・家庭で学ぶ人間関係が学べない。経験が少ない。
- ・愛着の環境・対象がない。などの意見をいただきました。

これらが「無い」ことに気付いたとき、子どもたちは「問題行動」として、自分の「喪失感」を訴えているのではないだろうか、と考えました。

また「愛着」について、「愛着関係」が形成されていないのではないかと考えました。

「愛着障害」といわれる反応を示す子どもについても、話し合いました。

「家庭・親」と離れて暮らす子どもたちだけではなく、一般的な家庭に暮らす子どもたち、今の子どもたち全体が抱えている問題はこの「不安定な愛着関係」にあるのではないのでしょうか。これを改善するには「愛着形成の再構築」が必要であるという結論に達しました。この「愛着形成の再構築」については、まだまだ課題を残すところでもあります。

(文責 第8回公開セミナー講師 山地靖子)

第9回公開セミナー

私たちのグリーフケア～回復する力を信じられますか～

悲嘆の過程は人それぞれの経過を辿る。落ち着きを取り戻したと思えても、また悲しみの感情が溢れ、さまざまな感情が交錯することもある。複雑な感情をひとりで抱えられなくなったとき、話を聴いてもらったり、ともに過ごしてくれる人がいると支えになる。ところが、もし、やっとの思いで苦しい思いを打ち明けたとき、相手からこんな言葉が返ってきたらどんな気持ちになるだろうか。「専門家のところへ行って話を聴いてもらったらいと思う」

この言葉が、さらなる喪失感をもたらすということを、私たちは気付かなければならない。人の繋がりを、いとも簡単に切ってしまうている。今回のセミナーでは、悩みを聴く立場にあるときに落ち着いて話を聴けるための演習と意見交換を行った。

演習は、まず参加者が2人組になり、母親を亡くした人と、その人の悩みを聴く立場の人という役割でロールプレイを行った。そのあと4人グループになり、ロールプレイでの体験をとおして「悩みを聴く立場にあることを自覚しているとき、カウンセリングでいう傾聴、受容、共感ということを離

れて、どのようなことに留意するか」について話し合い、後半は「悩みを聴く立場にあるとき、私たちはどういう気持ちになるか」を話し合った。話を聴くときには、相手の感情、意図、信条、期待を、理解しようとする積極的な姿勢が必要であること、話を聴くなかでしんどくなったときに、聴く側の不安を解消するための質問をしてしまうこと、それは決して相手のための質問ではないことを自覚しなければならないという意見があった。

悲嘆の過程は、どんなに複雑であっても、その人にとって自然で、たいせつな道りであるという認識と、一人ひとりに備わる回復力への信頼によって、いま目の前にいる人が抱えている複雑な感情や繰り返し語られることも、聴き続けることができるのではないだろうか。回復力への信頼感は、その人を理解しようとする意志を持ち続けることの原因力になるのではないだろうか。

(文責 第9回公開セミナー講師 杉山洋子)

11月の予定

- 11日(日) 10:00～ グループミーティング
- 11日(日) 13:30～ 第43回 理事会
- 18日(日) 10:00～ 第3回相談担当者会
- 22日(木) 18:30～ ヘルプラインカウンセラー養成講座開講
- 25日(日) 10:00～ 第10回公開セミナー
- 22日(木)～27日(火) 2012 高松市男女共同参画市民フェスティバルパネル展
(会場：高松市役所)